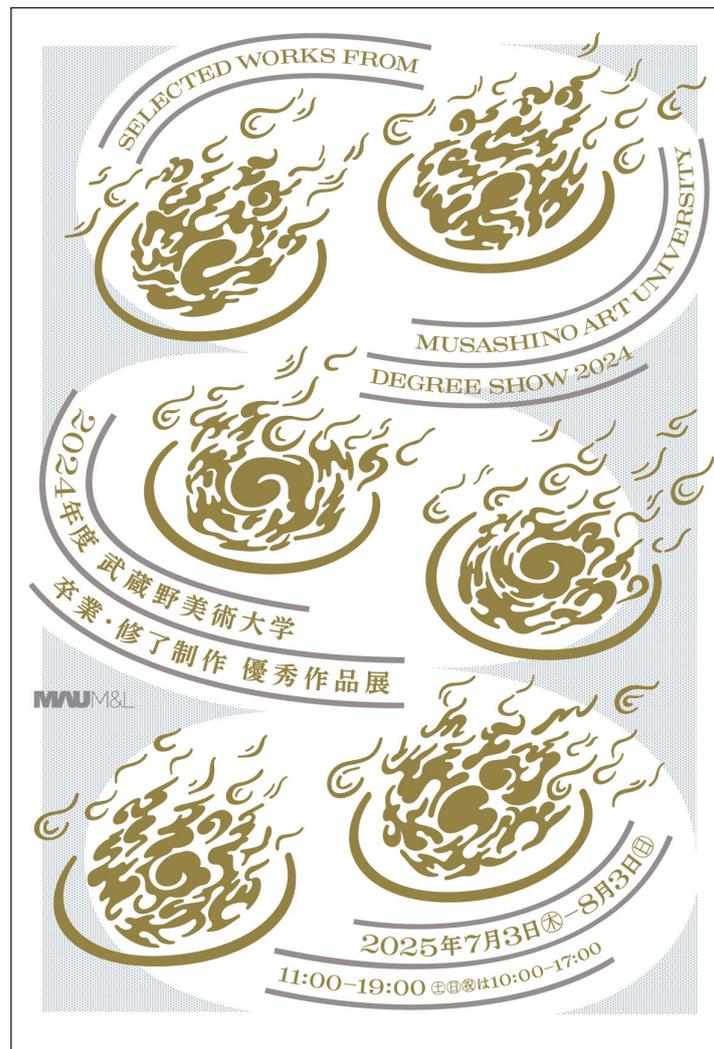


2024年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品展

Selected Works from Musashino Art University Degree Show 2024



図版1. 「2024年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品展」メインビジュアル
デザイン：大崎奏矢

会期：

2025年7月3日(木)
－ 8月3日(日)

会場：

武蔵野美術大学美術館

時間：11:00-19:00

(土・日曜日、祝日は10:00-17:00)

休館日：水曜日

入館料：無料

主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館

武蔵野美術大学 美術館・図書館では、約1年間の改修工事を経て、今年度最初の展覧会として「2024年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品展」を開催します。

武蔵野美術大学では、学部卒業制作および大学院修了制作において、特に優れた作品や研究成果を発表した学生に対し「優秀賞」が贈られます。優秀作品展は前年度の約100名の受賞者の作品や研究成果を学科やコースを越えて一堂に展示する、1967年の当館開館以来続く展覧会です。

学生たちが在学期間中に取り組んできた制作・研究の集大成はいずれも秀作揃いであり、本学で実践される美術教育のいまが映し出されています。美術とデザインをめぐる、新たな世代の活力に満ちた作品を総覧することで、これからの表現の可能性を感じていただけますと幸いです。

■美術館全体を使った展示

建築家・芦原義信(1918–2003)の設計により1967年に竣工し、藤本壮介(1971–)が2011年に改修を手がけた美術館棟全体のユニークな空間を活かして多種多様な作品を展示します。吹き抜けの開放的なアトリウムや大小5つの展示室、上映設備を備えた美術館ホールのほか、建物の外壁や図書館棟との連結部分であるテラスなど、普段展示ではあまり使われないスペースにまで作品を展開します。



図版 2.



図版 3.

図版 2,3 「2023年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品展」会場風景 2024年 撮影：稲口俊太

■総勢113名による多彩な表現

本学大学院修士課程(2科2専攻12コース)および学部(2学部12学科)の2024年度優秀賞受賞者113名による作品を展示します。卒業・修了制作展では鷹の台キャンパスと市ヶ谷キャンパス、通学課程と通信教育課程に分かれて発表された作品を、同時にご覧いただける機会です。

絵画や彫刻、デザイン、工芸などの作品展示に加え、パフォーマンスやショー形式の作品は記録映像とともに紹介します。さらには実写映画やアニメーションなどの上映作品、プレゼンテーションや研究論文など、展示作品の表現形式は多岐に渡ります。

また、優秀賞受賞者には卒業・修了後に第一線で活躍する作家やデザイナーも数多く、展示作品はいわば今後の活動の萌芽とも言えます。彼らの新鮮な視点と柔軟なアイデアにご注目ください。



図版 4. 島田涼平 (造形学部 日本画学科)

《方舟》

木製パネル、紙、岩絵具、水干絵具、透明水彩、色鉛筆

H3320×W7280 mm



図版 5. 浜崎真帆 (造形学部 空間演出デザイン学科)

《LOBBY》

ショー、パフォーマンス

12分22秒



図版 6. 中本八尋

(造形構想学部 クリエイティブイノベーション学科)

《AIがつくる、あなたの「記憶」》

プロジェクタ、コンピュータ、タブレット端末、

サーマルプリンター、感熱紙

サイズ可変

■出品者による解説と教員による選評

各作品のキャプションには鑑賞のガイドとして出品者本人による解説・コメントと、担当教員による作品選評を記載しています。

■作品選評例(抜粋)

繆 念何 (大学院造形研究科 美術専攻 油絵コース) 《when i tell a story》

ミクストメディア サイズ可変

日々の必ずしも良いことばかりではない出来事に注目し、それらを積極的に昇華して人生を進めるため、ユーモアを交えたオブジェとして作品化してきた。修了制作においては留学生ならではの翻訳についての気づきと問題意識を作品化の原点とした。『創世記』を対象としながらその古今東西の翻訳についてまとめるうちに、それらについての彼女の感想を作品化していくようになる。『創世記』巡りのために展示コーナーに楽しく配置された作品は、『創世記』の翻訳とそれに関する彼女の驚きを含んだ感想と解釈の場となっている。共通感覚(コモンセンス)を着眼点としたユーモア溢れる彼女の魅力的な作品群は、鑑賞する人の価値観を穏やかに揺さぶる。

選評：赤塚祐二(造形学部油絵学科教授)



図版7. 繆 念何《when i tell a story》(部分)

工藤俊祐 (造形学部 視覚伝達デザイン学科) 《日本語のリズムとタイポグラフィ》

本、Webアプリケーション、モーショングラフィックス 本：H390×W210、映像：60秒

戦後の日本のグラフィックデザインは、西洋のデザインに羨望の眼差しを向け摂取するという歴史を背景に進んできた。とりわけ前世紀までの書体制作は、ラテンフォントのようであれば、均質な組版のグレートーンをただひたすらに求めてきた。工藤の詳細な調査・体験・分析(日本の風土と日本人の生活、慣習、心象風景、身体性および視・聴・嗅・味・触覚に基づくリズム)と先進的なデジタル技術における具体的検証は、日本語組版における歪な濃淡こそが組版の本質であるとしたこれまでの感覚的な論を、「リズム」と仮定し、それを論理と科学で実証したものである。漢字・両がな、数字を交えて記される記述システムの意味を求めた根源的探求の成果がここにある。

選評：白井敬尚(造形学部視覚伝達デザイン学科教授)



図版8. 工藤俊祐
《日本語のリズムとタイポグラフィ》(部分)

図版4,6-8撮影：稲口俊太、図版5撮影：赤羽佑樹

webサイト「武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品集」では、過去の優秀賞受賞作品がご覧いただけます。

<https://selected.musabi.ac.jp>



お問い合わせ先：

武蔵野美術大学 美術館・図書館

東京都小平市小川町 1-736

tel: 042-342-6003 fax: 042-342-6451

<https://mauml.musabi.ac.jp>

美術館広報担当

mail: prmsm@musabi.ac.jp

プレス用図版をご希望の方へ：

- ・下記の注意点を参照の上、ご希望の図版番号と、必要事項をEメールにてお知らせください。(お名前、ご所属、電話番号、Eメール、媒体名、掲載号、発行予定日、コーナータイトル)
- ・掲載図版が1点のみの場合は図版1.をお送りします。
- ・2点以上の場合は、図版1.+ご希望の図版をお送りします。
- ・指定のクレジットを必ず明記してください。
- ・原則的には図版のトリミング、部分使用、文字載せはご遠慮ください。
- ・掲載内容確認のため、発行前にPDF等でレイアウトをお送りください。
- ・紙媒体は掲載見本のご寄贈(掲載ページのPDF可)、ウェブ媒体は掲載ページのURLお知らせをお願いします。